

シャープが23/3期業績予想を修正、営業損益は赤字、経常・最終損益は未定に一構造改革による業績・財務への影響を注視

以下は、シャープ株式会社（証券コード：6753）の23/3期業績予想の修正についての株式会社日本格付研究所（JCR）の見解です。

■見解

- (1) 当社は2月7日、23/3期業績予想を修正した。営業損益は従来予想の250億円の黒字から200億円の赤字に引き下げた。これは、中小型ディスプレイの販売減とそれに伴う工場稼働率の低下が主因である。背景には、パソコンなどの需要減速がある。一方、経常損益と最終損益の予想は未定としたが、赤字が示唆されている。現在、24/3期の黒字化に向けた抜本的な構造改革に取り組んでいるため、経常・最終損益予想の合理的な算定が困難としている。
- (2) 22年6月に完全子会社化した堺ディスプレイプロダクト（SDP）は今般の営業損益下方修正の要因にはなっていない。ただ、大型の液晶ディスプレイを手掛けるSDPが業績を強く下押ししている。大型の液晶ディスプレイは市況の悪化が長引いており、SDPの業績の早期回復は現状、見通しにくい。このため、SDPののれんや固定資産の減損損失を含め、構造改革費用の計上が多額にのぼる可能性に留意が必要である。JCRは、当社が推進中の構造改革の内容とその効果、並びに構造改革費用の計上が業績や財務に及ぼす影響を注視していく。
- (3) 当社の主力事業であるディスプレイデバイスでは、大型の液晶ディスプレイに加え、中小型ディスプレイでも事業環境が厳しくなっている。SDPは大型の液晶ディスプレイから中型ディスプレイへのシフトを進める方針としていたが、こうした戦略の雲行きも怪しくなっている。JCRは、ディスプレイデバイスの今後の事業戦略にも注目していく。

(担当) 千種 裕之・関口 博昭

【参考】

発行体：シャープ株式会社

長期発行体格付：BB+

見通し：安定的

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っており、JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル